



# 高校合格体験記

## (合宿編)

★T・Mさん 新松戸教室 中3 A1コース在籍

(進学生) 県立柏中央高校

創学舎の先生たちはとてもおもしろい先生が多く、話しかけやすかったです。夏合宿では苦手教科を徹底的にやりま

した。一日中ずっと勉強というプランで、最初は集中力が続くか心配で

した。でも、いくつかのイベントがあつたおかげで、とても楽しく、充実した合宿となりました。



★I・K君 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立小金高校

ぼくは中学三年の夏期講習から創学舎に来ました。特に印象に残ったのは、夏合宿です。自分を勉強する環境に置くことができました。一日中勉強すること、勉強する習慣が付き、苦手だった英語を克服することができました。

★M・Hさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立小金高校

私が一番印象に残っていることは、中学三年生の夏の合宿です。初めは、合宿はずっと勉強ばかりで辛そうだから、あまり行きたくありませんでした。しかし、私は合宿に行つたおかげで第二志望に合格することができたと思います。自分の苦手な教科と四日間何時間も向き合うことで、苦手

を克服することができました。また、模試や入試のときに「自分はあれだけいっぱいやったんだ」という自信にもつながりました。たしかに、毎日十時間近く勉強するのは大変でした。しかし、創学舎の先生方は私たちの疲れを飛ばそうと笑わせてくれたので、最後まで集中を切らすことなく続けることができました。私は、創学舎に入ってから三年間で偏差値が十五以上上がりました。それは、いつも丁寧教えてくださる先生方のおかげだと思います。創学舎に入つて本当に良かったです。

★S・R君 我孫子教室 中3 S1コース在籍

(進学生) 県立柏高校

僕が受験にモードなつたのは夏期合宿でした。受験はまだ先のことと思っていましたが、合宿参加者の真剣な取り組みを見たときに焦りを覚ええました。そこからは一日中勉強の日々……最終日はやりきれた達成感とこれからの決意を抱きながら帰ってきました。受験直前は本番に対する不安から逃げ出したくなることもありましたが、塾の先生の励ましや、体験談などを聞いてモチベーションを上げることが出来ました。第一志望に合格出来て、本当に良かったです。

★A・R君 柏教室 中3 A1コース在籍

(進学生) 県立柏南高校

僕は苦手科目克服といっても、そもそも得意な科目がなかった。どの教科も全くわからないしやる気も全くなかった。

しかし、三年の夏に行つた合宿で勉強のスタミナがつき、「英文読解の達人」をととても頑張つたら模試で点数が取れるようになった。授業でもわからないところを先生に聞きに行つて理解すること

ができるようになった。

★N・Nさん 新松戸教室 中3 A1コース在籍

(進学生) 県立柏南高校

私は夏休み前に入塾しました。私はそれまで部活にばかり時間をとられ、勉強にあまり時間を割けないでいました。夏期講習では、部活に忙しいことを考慮していただき、吹奏楽部だけのクラスをつくっていただきました。その

おかげで、私は勉強と部活を両立しつつ、コンクールでも好成绩を残すことができました。ここまでしてくれるのは創学舎だけだと思います。また、夏休みの合宿では

今までの中で一番自分を追い込めました。朝から晩まで勉強したのは初めてで、自分がここまで集中できたのは環境が良かったからだと思います。塾が私の中で一番勉強に打ち込める環境でした。私は創学舎に入れて本当に良かったと思います。

★T・Yさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立柏高校

高校は自分の行けるところでもいいやと思つていた私が「県柏に行きたい」と思い始めたのは夏休みの学校説明会からでした。そして、勉強に対する意識が最初に変つたのが、その夏の合宿です。今まで経験したことのない勉強時間を三泊四日の合宿で確保したおかげで、夏休み明けの模試では順位を上げることができました。

★T・Aさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立鎌ヶ谷高校

私が一番頑張つたなと思つたのは、中学三年生のときの勉強合宿です。今までやったことのない



くらの勉強量で驚きました。でも、合宿があつたから、今の勉強体制を整えることができたのだと思います。中学三年生になってからは、受験が近づくにつれ、毎日がとても辛く、不安でした。でも、創学舎の先生方、友達、家族の言葉がとても励みになりました。創学舎の授業やテキストはどれもとてもわかりやすく、私の自信に繋がりました。私が今こうやって志望校に合格できたのも先生たちのおかげです。本当に今まで三年間ありがとうございました。高校でも創学舎で学んだことを活かして、何事にも頑張つていきます。

## 「震度7」の行方

熊本地震が発生してから約二ヶ月が経過した。今回の一連の地震では、まず、圧倒的な余震の多さに驚かされる。熊本・大分の震度一以上の有感地震は、この原稿を書いている五月末段階で千五百回を超えている。余震の度に、被災者が不安を感じていると思うと、本当にいたたまれない気持ちになる。季節は、これから梅雨に入るとい時期だが、地震により地盤が緩んでいるため、土砂災害の発生が心配である。また、現時点でも八千人を超える方々が避難所で生活している。心休まらない生活で疲労している中、今後、気温や湿度が高くなるため、衛生面や熱中症等の体調面でも心配である。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

私は大学時代、地震・風水害等の災害分野を研究していたが、熊本地震について、個人的にいくつか考えたことがある。今回は、四月十四日午後九時台に発生した地震(いわゆる「前震」)で感じ

た違和感をメインに記したい。

私は、地震発生の情報を、仕事を終え駅で電車を待っているときにスマホを操作して知った。確か午後十一時前だったと思う。「熊本・益城町で震度7」の速報を見て最初に感じたことは、「えっ。地震発生から一時間程度しか経っていないのに、もう震度7が全国に伝わっているの?」ということだった。



この地震は、一九九五年阪神・淡路大震災、二〇〇四年新潟県中越地震、二〇一一年東日本大震災に続く国内で四例目の震度7である。しかし、阪神・淡路大震災の頃は、震度7を発表するのに気象庁の实地調査が必要だったため、震度7が報じられるまでに日数を要した。これを踏まえ、実地調査による震度の判定はなくなり、震度計による観測に完全移行したが、新潟県中越地震では、川口町に設置された震度計の通信端末(震度データを気象庁に送信する)が、地震発生直後の停電により停止してしまい、当初、震度6強と報じられた。約一週間後に、川口町の震度計の記録を取り出して、実は震度7を観測していたことがわかった。東日本大震災の時は、私自身の経験になっ

てしまうが、地震発生時にテレビを見られる場所にいなかった。そのため、インターネットを利用して情報を取得したが通信状況が良くなく、どこで震度7が発生したかを把握するのにかなりの時間を要した。だから、こんなに早く震度7の情報を入手したのは、初めての経験だった。

次に感じたのが、「えっ。M6.5で震度7?」ということだった。阪神・淡路大震災(M7.3)や新潟県中越地震(M6.8)と比較すると、ややマグニチュードが小さい。震度7を観測した益

城町の震度計は、震源のまさに直上(震央付近)か、あるいは揺れやすい地盤に設置されていたのではないかと思つた。あとで個人的に調べたところ、この震度計は、震央から五キロメートル程度離れた場所に設置されていたとわかったが、設置環境まではわからなかった。(ちなみに、設置環境が悪い震度計の震度が利用され、訂正された例もある。二〇〇八年岩手県沿岸北部地震では、観測された最大震度6強が、周辺の震度より大きかったことから、その精度が疑問視され、調査後に最大震度を6弱に訂正している。)

そして、この震度計は、十四日の地震で停電し、非常用の発電機も故障。非常用バッテリーの作動ランプも消え、十六日午前一時五分を最後にデータが気象庁に送信されなくなった。結局、十六日午前一時二十五分に発生したM7.3の地震(いわゆる「本震」)では当初、震度6強と報じられた。しかし、この段階では、2つの地震のマグニチュードの差を見て、震度6強に違和感を覚えた方もいたのではないか。益城町の震度計が震度7を観測していたことがわかったのは、四日後の二十日であった。果たして、「前震」と「本震」、発生段階で人々に大きな印象を与えたのはどちらだったのだろうか。



ここまで読んで、大地震が発生していることは事実なのだから、震度の正確性より迅速な情報伝達の方が重要だと考える方もいるかもしれない。緊急地震速報はまさに迅速な情報伝達に特化したツールだ。また、行政機関は、震度4〜5弱以上で被害調査や災害対応をするようになっていく。しかし、そうだとしても、やはり「震度7」かそうでないかの違いは大きい気がする。皆の頭の中

にある「震度7」のイメージ、緊迫性は、震度6強より圧倒的に強いのではないだろうか。

しかし、私はそう思う一方で、人間が構築した震度計周辺機器の強度よりも、「震度7」の揺れの強さの方が上回っているという自然の恐ろしさも同時に知るので。(本多)

(※マグニチュード：地震の規模、震度：その場所での揺れの大きさ)

## 逃げるな!受験生

●受験生の顔つきがよくない。疲れている。眼の輝きが乏しい。肝心の勉強も遅れ気味の人が多い。でも、思いつめている風でもない。「何となくブルー」といった感じか。



●先に生まれた者としては、正直いつて情けない。何故もつと一生懸命にならないのか?勉強するのならもつと一生懸命やれ。悩むのならもつと悩め。受験に外の道を探すのならもつとあがけ。中途半端な人がいてもいいし、そういう状態の時期があつてもかまわないが、何故こんなに大勢の人がそうなんだ?

●とはいうものの、キミ達が、そういう在り方をしているのは、一部は社会の責任であり、人によって一部は家庭に原因があり、また、個人の資質の部分もあるだろう。何よりもキミ達の多くが夢を持たずに生きていて、何かで傷つくのを避けようといつも一歩引いて身を置いているのは、この社会の大人達(私もその一人)の在り方を反映している。そのことに、私もいくらかの責任を感じるのだけれども、それでも言いたい。今のままでは、幸福感は味わえないぞ。ささやかな希望は幻想に

終わるぞ。

●私は、失敗ばかり重ねてきた人間である。(その失敗の数々は、恥ずかしくてここには書けない。行き詰まって駆け込んで来た人だけに話すことはある。)しかし、いろいろな人達のお陰で何とか生きてこられた。その人達のお陰で、幸福感を味わわせてもらっている。「幸福感」これは、本当に大切なものだ。人はまさにこのために生きていくといつてもよい。そしてキミ達にも、是非味わってほしい。そして、それを味わっているキミ達をみてみたい。不思議だが、それが私の「幸福感」を肥やす。で、言おう。

●自分の気持ちをよく見る。「勉強したくない」「気がおらない」「どうせ...」というのは、きみの一番大事な思いか?ちがうはずだ。そんなものは表面的な気分だ。きみの心の底にも「力をつけたい」「合格したい」という願望が確実に存在している。それを気分ですり抜けているから不快なのだ。大切にしたいのはどちらか?毎日毎日選択しろ。それが実は生きることなのだ。それが自分を大事にすることなのだ。勉強がうまくいっていないA君もB君もCさんも「今の自分が嫌い」と言った。冗談じゃない。だったら好きになるように動け。ほんのちよつとの勇気を出して選択しろ。そして続ける。但し、これから気合を入れても、先は甘くないぞ。結果が出るのに二〜三ヶ月はかかる。その時間を耐える。「耐え続けければ、必ず成果が上がるぞ」これを約束して筆を置く。(小林)



### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。